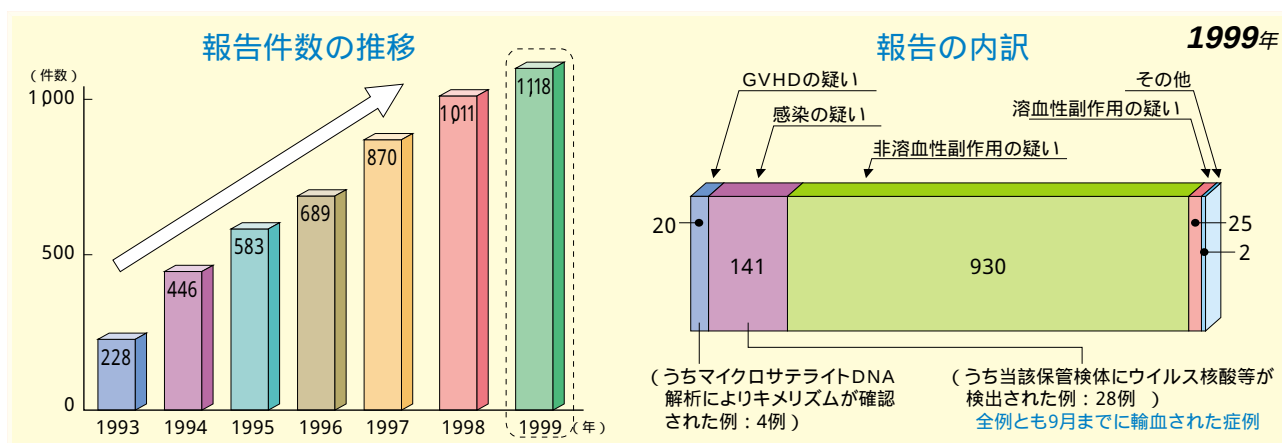


# + 輸血情報

## 【赤十字血液センターに報告された非溶血性輸血副作用－1999年－】

1999年の1年間に、医療機関において輸血による副作用と疑われ、赤十字血液センターに報告された症例のうち、最も報告数の多い非溶血性輸血副作用について示します。

### ● 輸血副作用・感染症報告件数（医療機関から報告された数、輸血との因果関係が低いものも含む）

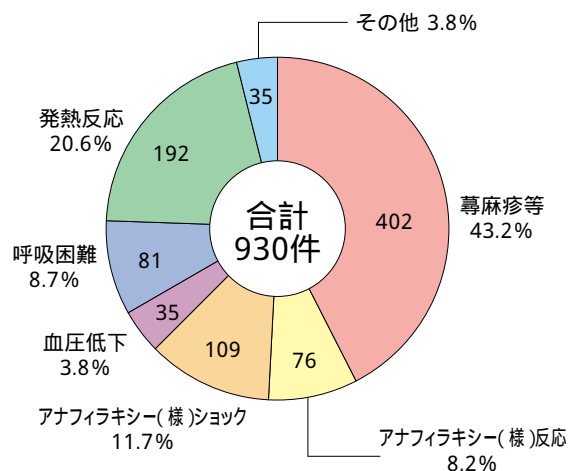


「非溶血性副作用」の報告数が最も多く、全体の83%を占めています。

### ● 非溶血性輸血副作用（1999年）

#### ■ 副作用の種類

副作用の種類別内訳は前年（1998年）とほぼ同様の比率で、『アナフィラキシー（様）反応』、『アナフィラキシー（様）ショック』、『血圧低下』及び『呼吸困難』の重症例が全体の約3分の1を占めています。



#### 症状の分類

##### 【アナフィラキシー（様）反応】

全身潮紅、蕁麻疹、血管浮腫（顔面浮腫、喉頭浮腫等）、呼吸困難等の全身症状を示したものを。

##### 【アナフィラキシー（様）ショック】

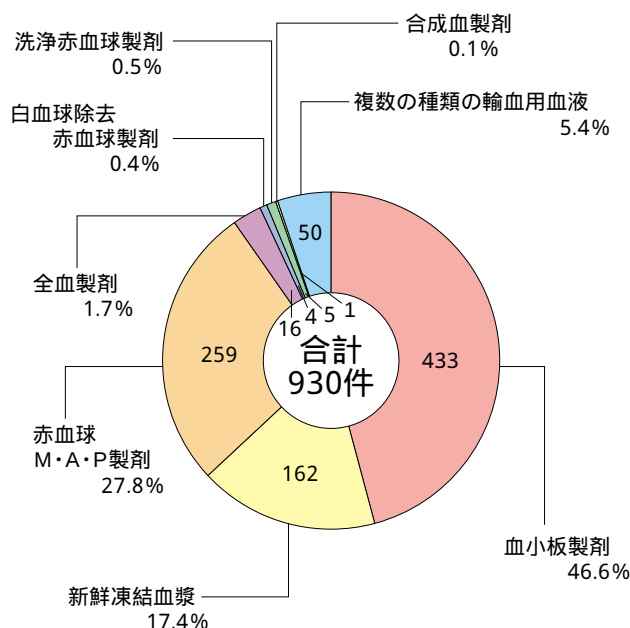
「アナフィラキシー（様）反応」に血圧低下を伴ったもの。

##### 【血圧低下】

皮膚症状、呼吸困難等の症状を伴わずに血圧低下を示したものを。

#### ■ 使用薬剤の種類

血小板製剤の使用による副作用が多く報告されています。



上記製剤には放射線照射製剤が含まれる。

## ■ 使用製剤・症状別 副作用報告頻度

供給数10,000本あたりの報告件数を使用製剤別にみると、血小板製剤が6.10件と最も多く、次は全血製剤の1.73件でした。  
使用製剤・症状別では、血小板製剤の「蕁麻疹等」が最も多く、3.01件でした。

## 使用製剤・症状別副作用報告頻度

供給数10,000本あたりの報告件数

1999年

|                 | 血小板製剤 | 全血製剤 | 赤血球M・A・P製剤 | 新鮮凍結血漿 |
|-----------------|-------|------|------------|--------|
| 蕁麻疹等            | 3.01  | 0.76 | 0.21       | 0.36   |
| アナフィラキシー(様)反応   | 0.76  | 0.11 | 0.02       | 0.05   |
| アナフィラキシー(様)ショック | 0.86  | 0.22 | 0.04       | 0.10   |
| 血圧低下            | 0.11  | 0.11 | 0.06       | 0.02   |
| 呼吸困難            | 0.49  | 0    | 0.07       | 0.05   |
| 発熱反応            | 0.77  | 0.54 | 0.30       | 0.07   |
| その他             | 0.08  | 0    | 0.06       | 0.02   |
| 計               | 6.10  | 1.73 | 0.76       | 0.67   |

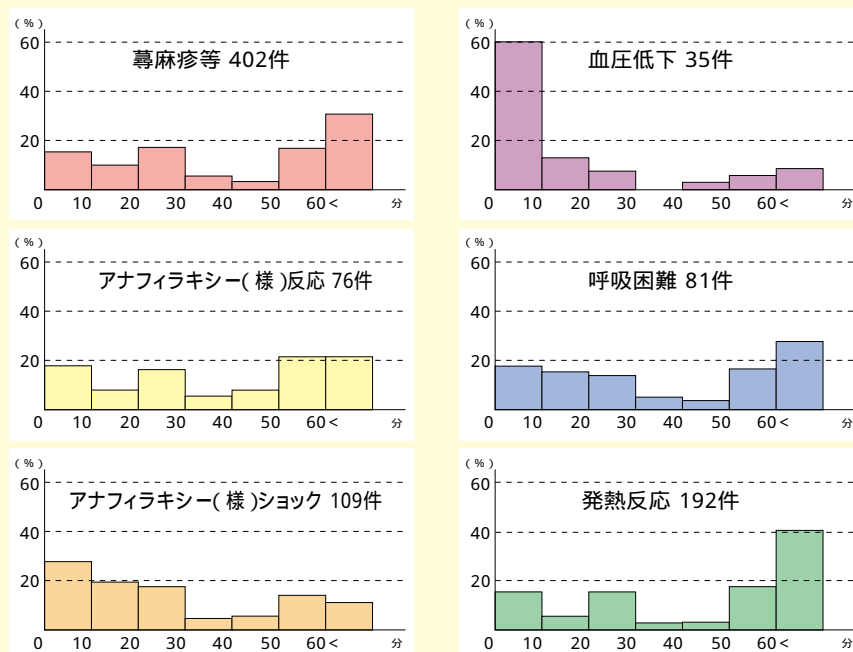
上記製剤には放射線照射製剤が含まれる。

## ■ 副作用発現時間

輸血開始後10分以内に副作用が発現した症例が、「血圧低下」で60%、「アナフィラキシー(様)ショック」で29%を占めています。

輸血中は患者さんの様子を適宜観察することが必要ですが、重篤な副作用の発見のために少なくとも輸血開始後約5分間は観察を十分に行い、約15分経過した時点で再度観察してください。

1999年



副作用発現時間(輸血開始後)

輸血用血液又は血漿分画製剤の使用による副作用・感染症が疑われた場合は、直ちに赤十字血液センター医薬情報担当者までご連絡ください。

また、原因究明のために、使用された製剤バッグ、患者さんの検体(輸血前・輸血後)等のご提供をお願いします。なお、使用された製剤バッグは、できるだけ清潔な状態で冷所に保存しておいてください。

## 日本赤十字社中央血液センター 医薬情報部

〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-1-31  
TEL:03-5485-6607 FAX:03-5485-7620

■ お問い合わせ